

ファーストペンギン

2022. 12. 12

「ファーストペンギン」といえば、テレビドラマである。ドラマ好きの家人が、録画したものを
見ているため、何となく見ることがある。なぜ、この題名なのか。気になったので調べてみた。

ファーストペンギンとは、ベンチャー精神をもって行動する個人や企業を、尊敬を込めて呼ぶ言
葉である。ペンギンは常に集団で行動するが、群れを統率するリーダーやボスはいない。よくテレ
ビなどで、氷上をペンギンたちが隊列を組んで移動する姿が映される。なぜ、そのような行動がと
れるのかというと、最初に行動を起こした1羽に皆が従う習性があるからである。

餌をとるために海に入るときも同様である。最初の1羽が飛び込むまで、群れはお互いに牽制し
合うような仕草を見せ、決して各々勝手に飛び込もうとはしない。もちろん、ペンギンが本当は何
を考えているのか分からないが、人間からすると、この最初の1羽は、非常に勇気ある行動をした
ように見える。海の中には、ペンギンの天敵であるシャチやトド、オットセイがいるかもしれない。
最初の1羽は、身をもって海中の安全を群れに伝えているようにも見える。

だが、この最初の1羽には、リスクばかりがあるわけではない。群れの仲間には先んずる分、より
多くの餌にありつける可能性がある。ビジネスも同様で、他に先駆けることで、より大きな利益に
結び付くかもしれない。

ビジネスとは違う面はあるが、教育界にもファーストペンギンはある。今までにも、職員会議を
なくした学校、定期テストをなくした中学校、校則をなくした学校などがある。ペンギンならば、
ファーストペンギンに続いて、群れのペンギンたちが行動を起こすだろう。

だが、教育界の場合は、そうはならない。職員会議がなくても学校を運営できるのであれば、他
の学校もそうしてもよさそうなものである。定期テストをなくしたとする。今までは、テスト前
にならないと勉強しなかった生徒が多かったとする。一斉に行う定期テストをやめ、単元の学習が終
わる度に、単元テストを行うとする。すると、生徒は日常的に勉強するようになるかもしれない。
あるいは、今までは定期テストに頼っていた部分が多かった学習のモチベーションづくりを魅力あ
る授業へと、その比重を移すことになるかもしれない。校則もなくしてみても初めて今までの校則が
おかしかったと気づくかもしれない。生徒が自分たちでルールづくりを始めるかもしれない。

学校は、なかなかペンギンのようにはいかない。変わりにくい体質なのであろう。思考力に柔軟
さが無い。思考の幅がせまい。子どもに思考力や判断力をつけさせたいのであれば、まずは自分
たちが変わらなければならない。これは、もちろん自戒の念をこめてである。

ファーストペンギンを目指しているわけではない。ファーストペンギンになりたいわけでもない。
しかし、教育界のファーストペンギンの意義や価値は十分に考えていきたい。今は群れをなしての
行動にはならないが、近い将来、ファーストペンギンは正しかったとなるかもしれない。